



TITLE:

大英図書館と日本コレクション (講演要旨)

AUTHOR(S):

Mrs.Yu-Ying Brown

CITATION:

Mrs.Yu-Ying Brown. 大英図書館と日本コレクション (講演要旨) . 静脩
1999, 36(1): 5-6

ISSUE DATE:

1999-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37532>

RIGHT:

大英図書館と日本コレクション（講演要旨）

大英図書館日本コレクション部長 Mrs. Yu-Ying Brown

1. 大英図書館について

大英図書館は1985年から15年間をかけてセント・パンクラス駅の隣りに建てられた。建物は新しいが、1753年に開館された大英博物館で収集された古いコレクションがある。周囲にはビクトリア時代の古い建物があり、厳しい規制から建築者はとても苦労した。出来上がってから批判もあった。しかし、新しい建物はビクトリア調ゴシックと調和が保たれ、ユーザーフレンドリーで現在では好評である。地下4階の書庫には1200万冊が保管される。公共の費用による建築としては今世紀最大のものである。光と空気と高さで圧倒されるようなスペースが取られている。まず門を入るとウィリアム・ブレイクの画像をモデルとしたニュートンの像があり、これには人文科学から自然科学まで全てという広い意味が含まれている。エントランス・ホールにはスコットランドのタペストリーがかかっており、入ってすぐ目に付くところにキングス・ライブラリーがある。キングス・ライブラリーには6万冊の貴重図書が保管されており、また、1823年にジョージ4世によって寄贈されたジョージ3世のコレクションも入っている。1850年以前の貴重図書は「貴重本・音楽・マヌスクリプト室」で見る事が出来、部屋は光を調整して本の美しさを感じられるように設計されている。また、古い印刷物は紙の質を痛めないように画像に入れて見るようになっており、従って拡大して見ることもできる。閲覧室はどこもスペースの広さを感じさせるホワイトオークをふんだんに使用している。閲覧室は全てオープンである。椅子も全てレザーで贅沢なものになっている。カーペットは閲覧室によって色が違う。公共図書館ではないので、一般の人は利用できないが、十分な理由があれば、パスが発行される。本の検索、閲覧はコンピュータで行えるよう全てオートメーション化されてい

る。コンピュータの利用は自分のIDナンバーを入れれば利用でき、銀行でお金を出すのと同じように簡単で安全で早い。15冊まで請求出来、請求した本は約40分で手元に届く。(旧館時代は4時間かかっていた。)1年先まで予約もできる。

大英図書館は21世紀の図書館と言える。(註：UK.Weekly no.251より：大英図書館の全体像1. オープンスペース 2. エントランス・ホール 3. 展示ギャラリー 4. 書庫 5. 貴重本・音楽・マヌスクリプト室 6. 人文室 7. キングス・ライブラリー 8. オリエンタル・インドオフィス 9. 科学・技術・工業室 10. 講堂 11. その他、ギャラリー、ラウンジ、レストラン、カフェテリアがあり、蔵書数約1700万冊、総座席数1200、検索用端末50台、スタッフ2400人以上である。)

2. 日本コレクションについて

大英図書館は1973年に大英博物館の図書部と他の図書館の組織を集めて作った国立図書館であり、設立されるまでは、大英博物館の心臓部であった。1890年代の数年間に南方熊楠（博物学者）が人文科学から自然科学まで幅広い研究のために利用しているが、本格的に日本の研究者がきたのは1960年代からである。

大英図書館は日本の和漢書のコレクションを所蔵している。このコレクションがどんなに素晴らしいかを知ってもらうために1993年に『大英図書館所蔵日本古版本目録』を前任者の故ケネス・B・ガードナー氏が編纂・刊行した。目録の中には1700年以前に日本で刊行された本637点がリストアップされている。その中には120点の古活字版がある。たとえば、鎌倉時代、室町時代の寺院で出版された春日版・浄土教版・高野版・五山版などの古版本、勅版・キリシタン版・嵯峨本などの古活字版まで含まれている。

これらのコレクションは、ほとんど4人のコレクターから購入または寄贈されたものである。ちゃんとしたルーツによって入ってきたものばかりである。

No.1はエンゲルベルト・ケンペルのコレクション。ケンペルは有名な『日本誌』を著し、鎖国という言葉をもっと使った人である。彼が亡くなった後に大英博物館の創始者ハンス・スローン卿が彼のコレクションを買い入れた。コレクションの内容は日本関係の和書、地図、動植物標本、ケンペルの自筆原稿等である。保存状態はあまり良くないが、日本関係は完全な形で保存されている。鎖国の厳しい時代にどのようにして集めたのか。彼には日本人の助手がいた。コレクションの古文書（保証書）の中に「今村源右衛門」の名前があり、そこから、日本人の助手であることが明らかになった。

No.2はフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトのコレクション。1859年、来日の時に集めたもの1008点3441冊がある。特別に古いもの、古版本は少ない。特徴は百科全書的にカバーされており、日本の写本を集めている。写本は大英図書館所蔵の半分をしめている。尊皇攘夷に関するもの、民族学的なもの、沖縄の民俗学的なもの、美術書、植物図鑑、地図、絵巻もの等である。

No.3はアーネスト・サトウのコレクション。イギリスの外交官として1862年から1883年、1895年から1900年の2回の滞日勤務の間に収集されたものである。古版本と古活字版の宝庫であり、1600年以前の印刷によるものが含まれて

いる。これらは、90%が京都の寺町の本屋で購入されたものであり、サトウの日記等からそのことがうかがえる。ユニークな本、春日版、浄土教版、高野版、勅版、嵯峨本など主なものが揃っており、日本古典籍関係では最も重要なものである。

No.4はウィリアム・アンダーソンのコレクション。彼が明治政府のお雇い外国人として海軍医学校の教授をしていた時代に収集されたものである。日本の美術について興味を持ち、絵本、絵入り本は2000冊にのぼる。菱川師宣の『好色大和繪のこんげん』や初期の浮世絵師の筆になる絵本等すばらしいものがある。文学的なものは大英図書館に、芸術的な絵本類などは大英博物館に分けて所蔵されている。このコレクションのうち、ケネス・B・ガードナー氏の編集・刊行した目録からはずれるものについては、1700年以後の出版物を対象とする「目録」が刊行予定され、それに入るはずである。

以上、時間の関係で簡単な紹介に終わりましたが、日本の文化が如何にすばらしいものであるかを研究してもらうために「日本コレクション」が力を発揮できれば喜ばしいことだと思います。ありがとうございました。

[本稿は平成11年4月20日に大英図書館日本コレクション部長のYu-Ying Brown（ユー・イン・ブラウン）女史を迎えて開催された平成11年度京都大学附属図書館講演会の要旨である。講演は日本語で行われた。]